うちの子は、特殊学級でなければ学習に耐えられないだろう、と言われている能力の低い子供だが、それでも漢字学習をさせて大丈夫だろうか。

人の顔というものは、皆、目が二つ、鼻と口が一つ、というように、同じ道具が備わっていて、それら、大同小異の形をしています。それにもかかわらず、人は、この顔を識別しているのです。

自分の母親の顔を、他の人の顔と区別して間違えることがないだけの能力をもった子なら、まず、漢字が覚えられないということはありません。本質的に見るなら、漢字を識別することは、人の顔を識別するよりもずっとやさしいことです。「顔」と「頭」、「雲」と「雪」などは、かなり似通っている字ですが、人の顔などは、もっと似通っているでしょう。

私の経験によりますと、最も能力の劣った子供でも、「顔」と「頭」、「雲」と「雪」をはっきりと弁別して読みました。ただ、抽象的な言葉を表わす漢字は、覚えるのが困難でした。「七」を「ろく」「はち」と読んだり「八」を「しち」「く」と読んだり、数であることだけはわかるのですが、なかなか正しく読むことはむずかしいようでした。でも、かなは、もっとむずかしいのですから、やはり、できるだけ、具体的な内容をもつ漢字から学習を始め、だんだんと抽象的な漢字に移り、それからかなの学習に移るのが、最も学習の手順として良いと思います。

神戸市の特殊学級で、辻昌子先生が、それまでの“かな”学習を、漢字学習に換えたところ、子供たちの学習が進んだばかりでなく、それまでよりも、学習に意欲を示すようになり、学習に活気が出てきた、ということを発表しておりました。

特殊児童こそ、かなよりも漢字を先に教えられる必要があるのです。